

式 辞

梅の花の香りがぐわしく、春の息吹が感じられる今日の良き日に、多くのご来賓、保護者の皆様のご臨席を賜り、兵庫県立神戸甲北高等学校 第四八回 卒業証書授与式を、かくも盛大に挙行できますことは、本校にとりまして、この上ない喜びです。

ただいま卒業証書を授与されました皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。本校入学以来たゆまぬ努力を積み重ね、それぞれの成果を得て、本日ここにめでたく卒業の栄誉を手にしたことに対し、心からの敬意を表し、賛辞を贈ります。

保護者の皆様には、お子様の栄えあるご卒業を心からお祝い申し上げます。今日のお子様の姿を目にされ、幼いころからの、さまざまなことが思い出され、感慨もひとしおのことと存じます。本校での三年間におきましても、お子様を温かく見守ってくださり、本校の教育活動にも多大なるご協力、ご支援を賜りましたことに、お礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、卒業生の皆さん。皆さんがここで過ごした三年間は、本校の歴史において大きな節目となる三年間でした。ちょうど皆さんが二年生のときに、本校は創立五十周年を迎えました。五十年前、本校創立の際に十代であった最初の生徒達は、今はもう六十代です。この五十年間に世界の歴史は激しく動き、科学技術はすさまじい勢いで進化しました。五十周年記念事業で学校図書館のリニューアルを行いました。蔵書を整理すると、今はもう存在していない国々に関する地理の本やガイドブック、その当時の「最新」科学技術を紹介する本などがたくさん出てきました。連続する日常の日々の中では特に意識もしなかったけれども、実は世界情勢の変化や高度情報化によって現実が確実に変わっていたことを視覚化されて、つきつけられたようでした。

また、この五十年の間には、信じられないような大きな震災や、人類にとって未知の感染症が大流行するといった、災厄も起こりました。しかし、大きな困難に直面しても、立ち向かい、乗り越えていこうとする意思によって、人々は歴史を進めていきました。

時代の変化にともなって、生活や行動様式、家族や周囲の人とのかかわっていく上での意識すらも、大きく変化しました。五十年前の高校生が抱えていた困難は、社会の発展によって解決・解消されていきましたが、一方で、高度情報化社会の真ただ中で、便利であるがゆえの「生きづらさ」も、生じています。

今日のこの日からまた五十年がたったとき、世界はどのように変化しているのでしょうか、皆さんはそれぞれどんな人生を歩んでいるのでしょうか、今は想像もつきません。予測不能な未来に思いを巡らしていたとき、それこそ教員としての経験が浅かった昔には到底理解し難かったことばが浮かんできました。二十世紀を代表する物理学者として有名なアルバート・アインシュタインが残した言葉です。

「教育とは、学校で学んだことをすべて忘れたあとに残るものをいう」

知識として理解したものが失われたり役に立たなくなったりしたとしても、しっかりと自分のものになった思考の仕方や感性は残ります。この3年間、皆さんはここ、神戸

甲北高等学校で、精一杯勉学に励み、自分が打ち込めるものを見出して、自らの進路を拓いていきました。

総合学科での学びを通して、それぞれ豊かな個性を育み、多彩な才能を持つ友人、先輩、後輩に囲まれて、民族や文化、意見や考え方、価値観の違いを乗り越え、協働しながら新しい価値を生み出していく力を蓄えました。総合学科で育んだ、自ら人生を切り拓く力と手ごたえは、今の学校で学ぶ知識や技術よりもはるか先にまで人類が到達したとしても、今は予測もつかない未来を生きるとしても、皆さんの中にしっかりと残っていくはずです。

この学び舎を巣立ってからが、人生の本番です。身につけた力を生かして、それぞれが進む世界で、自らを高めるために、大事な人たちを幸せにするために、学び続けて行動して行ってほしいと願っています。

高校までの「あたりまえ」の生活は、明日から「あたりまえ」ではなくなります。自分自身で判断し、責任を負わなければならないことが、今までよりずっと増えてきます。それが、十八歳で成人となり、自立するということです。自分にとって都合のいいことだけに目を向け、物事や情報を安易に無批判に受け入れるのではなく、一人の大人として、多様な角度から論理的・客観的に理解し考えて行動する力を発揮して行ってほしいと願っています。三年間でつかんだ学びの手ごたえと誇りを支えに、しなやかに、たくましく未来を切り拓く人生を歩んでいってください。

そして今、この会場で、また会場の外から、皆さんの後姿を温かく見守ってくださっている方々のように、誰かを守り、支えられる人となっていってください。志高く、たくましく、謙虚さを忘れず、多様な人たちと語り合い認め合って、そうするからこそ豊かになる人生を歩んでいってください。

皆さんの洋洋たる前途を祝福するとともに、健康としあわせを祈っています。

終わりにあたり、ご来賓、保護者の皆様から、これまで本校に寄せられましたご厚情とご支援に対しまして、厚くお礼申し上げますとともに、今後ともご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、式辞といたします。

令和七年二月二十八日

兵庫県立神戸甲北高等学校
校長 檀 千 種